

# 兵庫県におけるニホンジカ管理の現状と成果

Current status and achievements of sika deer management  
in Hyogo Prefecture, Japan



兵庫県森林動物研究センター  
兵庫 ワイルドライフモノグラフ 11号  
2019年3月

Wildlife Management Research Center, Hyogo  
Wildlife Monograph of Hyogo, No.11

## はじめに

兵庫県森林動物センター（以下、研究センター）は、ワイルドライフマネジメントに係わる研究成果を、野生動物の保全と管理に関わる業務を行っている行政担当者や実務者、技術者、研究者などへ実務に有益な知見を提供することを目的として、平成 20 年度から「兵庫ワイルドライフモノグラフ」を刊行してまいりました。今回、第 11 号として「兵庫県におけるニホンジカ管理の現状と成果」を刊行いたします。

兵庫県では長期モニタリングをもとに、生息数や生活史パラメータなどの情報が正確にはわからない場合であっても、個体数の増減に応じて捕獲圧を調整し、個体群管理を系統的な試行錯誤（為して学ぶ）によって行う順応的管理を採用しています。時系列データの解析に用いられる状態空間モデルによる個体数推定を行ったところ、従来の個体数推定が過小評価であることが明らかになりました。そこで、最新のデータに基づくシカの推定生息数と将来予測をもとに年間 30,000 頭の捕獲目標を設定して、個体数管理政策を強化しました。その結果、2010 年以降に年間 30,000～45,000 頭のシカが捕獲され、全県レベルでは推定生息数および農業被害も減少傾向に転じました。

市町レベルでの個体数推定によっても、多くの市町で減少傾向や頭打ちが確認されたことにより、兵庫県のシカ管理施策について効果を検証することができました。しかし、増加している市町もあり、個体数動向に地域差が生じています。市町レベルのシカの個体数動向を的確に把握するためには、解像度の高い適切な個体数指標を収集する体制が必要となりますが、そのデータ収集の体制整備が求められています。

一方で、県境をまたいで分布するシカの広域管理の仕組みが必要なことなど、新たな課題が明らかになりました。実際に、兵庫県氷ノ山系に生息しているシカにGPS首輪を装着したところ鳥取県への季節移動が確認されています。

神戸市の国営公園で確認されたニホンジカは、人為的に放逐されたものと推測されていますが、神戸市や研究センターおよび関係諸機関との連携に基づく迅速な初動体制により、個体数の増加を食い止めることができましたが、今後増加すると想定されるアーバンワイルドライフの対応のヒントとなる事例だと思えます。

シカについては現状で、HEV 感染は極めて低い状況が明らかになりましたが、持続的な資源利用を行うためには、今後も定期的な疫学調査による HEV 感染状況のモニターが必要です。

以上のように、長期モニタリングと最新の研究成果によって、シカの管理施策を科学的に評価し、順応的管理を実施する基盤が整備されつつあります。

最後になりましたが、「兵庫県ワイルドライフモノグラフ」は、編集委員が毎年設定するテーマに沿って執筆される論文等をモノグラフとして編集しております。皆様の投稿をお待ちしておりますので、詳細などについては投稿規定を参照してください。

兵庫県森林動物研究センター所長 梶 光一

「兵庫県におけるニホンジカ管理の現状と成果」

---

目次

1章	兵庫県におけるニホンジカ管理政策の概要	1
	井上 裕司・高木 俊	
2章	兵庫県におけるニホンジカの科学的モニタリングに基づく 順応的管理の評価と展望	14
	藤木 大介・高木 俊	
3章	兵庫県におけるニホンジカ個体群動態の推定と地域別の動向	30
	高木 俊	
4章	兵庫県氷ノ山山系に生息するニホンジカの GPS 発信器による季節移動の解明	58
	森光 由樹・藤木 大介・斎田 栄里奈	
5章	兵庫県神戸市において確認されたニホンジカの生息状況と 捕獲対策の効果について	68
	横山 真弓・沼田 寛生	
6章	兵庫県に生息しているニホンジカの E型肝炎ウイルス感染状況(2007-2008年)	94
	森光 由樹	